

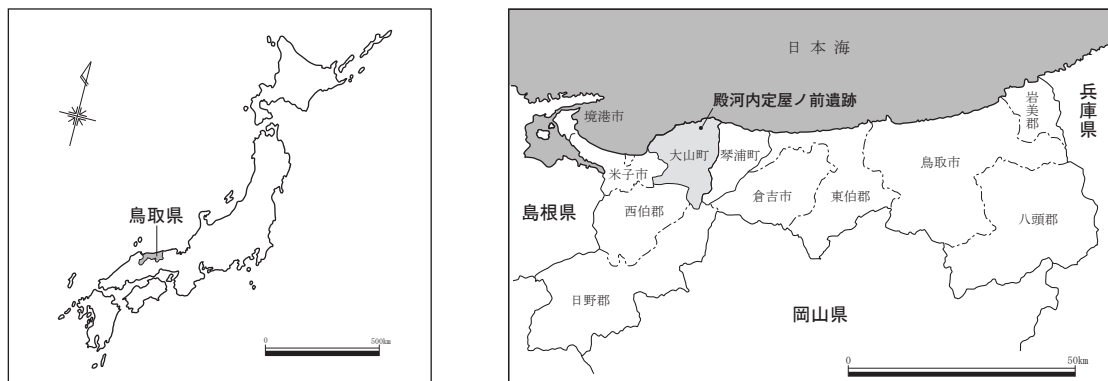
第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

殿河内定屋ノ前遺跡が所在する大山町は、鳥取県西部、西伯郡の北東部を占める位置にあり、県庁所在地の鳥取市からは西へ約80km、県西部中核都市の米子市に隣接する。町域は、南端の大山(1,729m)を頂点に、船上山(615m)から金屋付近の日本海に至る線を東辺とし、西辺は大山を頂点に下槇原・孝霊山(751m)を結び保田付近の日本海に至る、不整逆三角状に広がる形を呈す。東西約15km、南北約20km、総面積は約189.8km²を測り、人口は18,005人(平成23年12月現在)の農畜産漁業・観光を主な産業にする町である。

本町の地勢は、大山山系から放射状に流れる小河川により開削並びに侵食され残った、手指状に延びる台地上の尾根と急峻な小溪谷が繰り返す火山性台地と、甲川、下市川、真子川、名和川、阿弥陀川流域に発達した平野部からなる。平野部は、肥沃な黒ボク地帯で、特に阿弥陀川流域は県内でも屈指の広さとなる扇状地を形成している。台地は、御来屋砂礫層上に主に大山火山灰土の堆積したもので、海岸線付近まで延びている。町内には、前述の大山山麓に源流を発する河川の他、大小計12本の川が日本海に注いでいる。

殿河内定屋ノ前遺跡は、同町の北側やや東部に位置し、海岸線から約1.5km内陸にある、殿河内集落の南側に隣接している。下市川右岸にあり大山山系から北側に派生する標高47～59mの台地上に立地している。当遺跡から約200m西側の下市川左岸の河岸段丘上には、縄文時代から中世にかけての集落遺跡である殿河内上ノ段大ブケ遺跡がある。



第4図 殿河内定屋ノ前遺跡位置図

第2章 位置と環境

第2節 歴史的環境

ここでは、殿河内定屋ノ前遺跡が所在する大山町東部(旧中山町)を中心に、隣接する琴浦町西部地域も含めた周辺遺跡の概要について述べる。

旧石器時代 鳥取県下の旧石器資料は15遺跡で確認されている。周辺では、梅田萱峯遺跡(88)でナイフ形石器が、豊成上金井谷峰遺跡(124)で台形石器が、本来の位置を遊離した状態で出土している。

縄文時代 当該地域は、県内においてもこの時期の遺跡が多数存在する地域である。草創期では、羽田井・退休寺などで有茎尖頭器が表採され、住吉第2遺跡(67)で有茎尖頭器、細工塚遺跡(63)で局部磨製石斧が出土している。

早期では、遺構は伴わないが赤坂後口山遺跡(71)、退休寺飛渡り遺跡(75)、上大山第1遺跡(36)、角塚遺跡(39)などで押型文土器が出土している。

前期では、石器製作を行っていたと推定される下市築地ノ峯東通第2遺跡(60)、貯蔵穴が確認された細工塚遺跡がある。

後期では、南原千軒遺跡(琴浦町光)で石囲い炉をもつ竪穴住居跡が検出されており、遺構外から県内6例目となる土偶が出土している。その他、縄文時代を通じて、落とし穴が殿河内定屋ノ前遺跡(131)をはじめ、八重第3遺跡(91)、小松谷遺跡(68)、下甲抜堤遺跡(70)、赤坂後口山遺跡、下市築地峯東通第3遺跡(59)、小竹上鷹ノ尾遺跡(119)など多数の遺跡で検出されており、狩猟場として丘陵・微高地縁辺部が利用された様子が窺われる。

弥生時代 この地域では前期の遺構は少なく、樋口第1遺跡(87)、三谷遺跡(98)などで土器が出土している程度である。

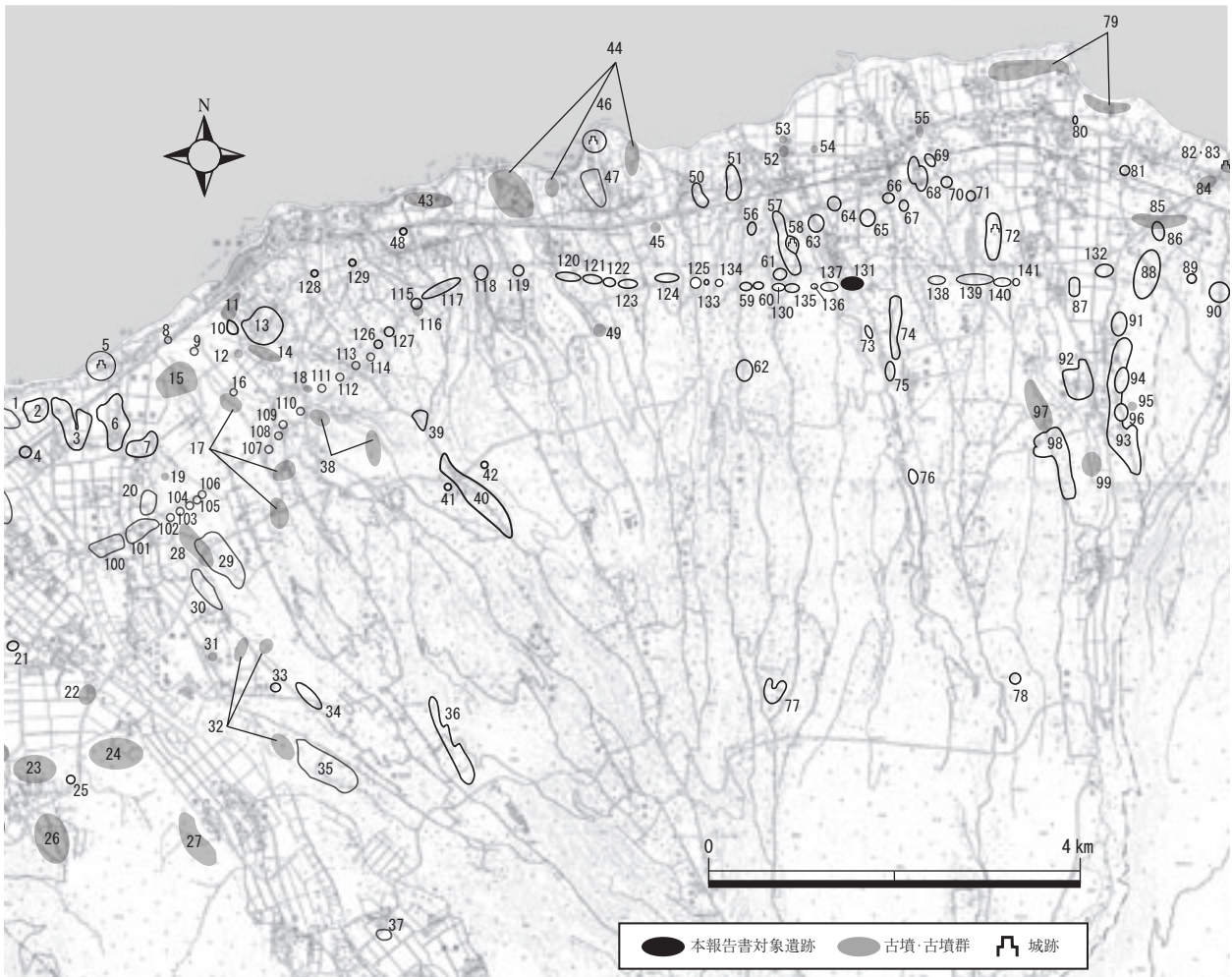
中期になると遺跡数が増え、集落遺跡として細工塚遺跡(63)、退休寺遺跡(74)、退休寺飛渡り遺跡、南原千軒遺跡、殿河内定屋ノ前遺跡、化粧川遺跡(琴浦町赤碕)などが挙げられる。倉谷荒田遺跡(121)では、中期後葉の竪穴住居跡から鉄製品が出土しており、山陰地方における鉄器の普及開始段階の一例となっている。墳墓では墓ノ上遺跡(琴浦町松谷)、別所女夫岩峯遺跡(琴浦町別所)で木棺墓が見つかり、梅田萱峯遺跡では、中期後葉の貼石を施した長方形の墳丘墓(梅田萱峯弥生墳丘墓)が検出された。現時点で県内では最古級の弥生墳丘墓である。

後期には、退休寺遺跡、八重第3遺跡、福留遺跡(琴浦町赤碕)、籠津乳母ヶ谷第2遺跡(90)、梅田萱峯遺跡、梅田東前谷中峯遺跡(89)など丘陵上に集落が多数造営される。湯坂遺跡(琴浦町湯坂)では小型の墳丘墓を埋葬に伴って増築した例があり、山陰地方では珍しい鉄石英製の管玉が副葬されていた。

古墳時代 古墳時代に入ると大型前方後円墳が各地に築かれる。当該地域の古墳は、ほとんどが中期から後期にかけてのものである。前方後方墳の別所1号墳(笠取塚古墳、52m)(琴浦町別所)は、墳形の特徴から前期に築造された可能性がある。

また、中期後半の高塚古墳(岡1号墳)(54)は、朝顔形埴輪・形象埴輪などが出土した直径30mの大型円墳で、当地域の首長墳と位置づけられる。

中期から後期にかけては丘陵や段丘上に古墳や横穴墓が群を成して築造されるようになる。御崎古墳群(79)、別所古墳群(琴浦町別所)、籠津古墳群(83)、坂ノ上古墳群(84)、梅田(栄田)古墳群(85)、東積古墳群(99)、三谷古墳群(97)、豊成古墳群(44)などがある。御崎古墳群・別所古墳群・梅田古墳群では、横穴式石室が採用される直前の時期に、この地域独特の河原石を用いた箱式石棺を主体部に



1.大塚第3遺跡、2.大塚岩田遺跡、3.大塚塚根遺跡、4.大塚屋敷遺跡、5.富長城跡、6.古御堂遺跡、7.文殊領屋敷遺跡、8.荒田遺跡、9.南川遺跡、10.馬郡遺跡、11.名和公園裏古墳群、12.ハンボ塚古墳、13.長者原遺跡、14.坪田古墳群、15.富長山村古墳群、16.門前礎石群、17.門前古墳群、18.長綱時古墳群、19.原3号墳、20.茶畑山道遺跡、21.清原遺跡、22.中高遺跡、23.長田古墳群、24.平古墳群、25.徳楽方墳、26.源平山古墳群、27.宮内古墳群、28.茶畑古墳群、29.茶畑第2遺跡、30.東高田遺跡、31.高田26号墳、32.高田古墳群、33.高田原廃寺、34.高田第4遺跡、35.高田第10遺跡、36.上大山第1遺跡、37.蔵岡第1遺跡、38.梶原古墳群、39.角塚遺跡、40.栃原遺跡、41.栃原跡跡、42.上寺谷たたら、43.東坪古墳群、44.豊成古墳群、45.豊成28号墳、46.長野城跡、47.浜ノ坂遺跡、48.龍光寺掘遺跡、49.倉谷横穴墓、50.松河原第1遺跡、51.松河原第2遺跡、52.岩屋堂古墳(岡古墳)、53.岡3号古墳、54.高塚古墳、55.曲松古墳群、56.築地峯東通遺跡、57.林之峯東通遺跡、58.天守山遺跡、59.下市築地ノ峯東通第3遺跡、60.下市築地ノ峯東通第2遺跡、61.要害ノ峯遺跡、62.築地ノ峰第3遺跡、63.細工塚遺跡、64.向畑遺跡、65.住吉第4遺跡、66.住吉第1遺跡、67.住吉第2遺跡、68.小松谷遺跡、69.林之峯遺跡、70.下甲坂堤遺跡、71.赤坂後口山遺跡、72.石井垣城跡、73.殿河内落合遺跡、74.退休寺遺跡、75.退休寺飛渡り遺跡、76.退休寺第1遺跡、77.二本松遺跡、78.羽田井遺跡、79.御崎古墳群、80.御崎第2遺跡、81.田中川上遺跡、82.籠津城跡、83.籠津古墳群、84.坂ノ上古墳群、85.梅田(栄田)古墳群、86.梅田六ツ塚遺跡、87.樋口第1遺跡(樋口遺跡)、88.梅田萱峯遺跡、89.梅田東前谷中峯遺跡、90.籠津乳母ヶ谷第2遺跡、91.八重第3遺跡、92.樋口第2遺跡、93.八重第4遺跡、94.八重第1遺跡、95.岩屋平古墳、96.八重第2遺跡、97.三谷古墳群、98.三谷遺跡、99.束積古墳群、100.押平弘法堂遺跡、101.茶畑六反田遺跡、102.茶畑第1遺跡、103.押平尾無遺跡、104.古御堂笹尾山遺跡、105.古御堂金蔵ヶ平遺跡、106.古御堂新林遺跡、107.門前第2遺跡、108.門前鎮守山城跡、109.門前上屋敷遺跡、110.名和飛田遺跡、111.名和乙ヶ谷遺跡、112.名和衣装谷遺跡、113.名和小谷遺跡、114.名和中畝遺跡、115.西坪岩屋谷遺跡、116.西坪岩屋谷古墳、117.東坪中林遺跡、118.小竹下宮尾遺跡、119.小竹上鷹ノ尾遺跡、120.倉谷西中田遺跡、121.倉谷荒田遺跡、122.豊成叶林遺跡、123.豊成上神原遺跡、124.豊成上金井谷峰遺跡、125.松河原上奥田第2遺跡、126.西坪上高尾原遺跡、127.西坪下馬駄ヶ峰遺跡、128.名和下菖蒲谷遺跡、129.西坪三軒屋遺跡、130.下市天神ノ峯遺跡、131.殿河内定屋ノ前遺跡、132.樋口西野末遺跡、133.松河原上奥田第3遺跡、134.下市前築地遺跡、135.殿河内ウルミ谷遺跡、136.殿河内日ノ出峰第1遺跡、137.殿河内上ノ段大ブケ遺跡、138.下甲退休原第1遺跡、139.赤坂小丸山遺跡、140.赤坂頭無し遺跡、141.石井垣上河原遺跡

第5図 周辺遺跡分布図

もつものがみられる。

後期には、岩屋堂古墳(岡古墳)(52)、長野2号墳、岩屋平古墳(95)、豊成28号墳、出上岩屋古墳(県史跡)(琴浦町出上)など切石積みの横穴式石室をもつものがあり、米子市淀江町域にかけての同一文化圏を形成している。

この時代の集落は、依然として丘陵上に営まれる傾向が強く、前期の八重第3遺跡、下市前築地遺跡、中期から後期の住吉第2遺跡、南原千軒遺跡などがある。また籠津乳母ヶ谷第2遺跡では、後期の鍛冶工房が検出されている。

第2章 位置と環境

古代 大山町東部(旧中山町域)は伯耆国の汗入郡に属する。『倭名類聚抄』によれば、束積・汗入・奈和・尺度・高住・新井の6郷が記載されるが、旧中山町域は束積・汗入の2郷が相当する。汗入郡衙の位置については明らかになっていない。

当該地からやや離れるが、琴浦町内には山陰地方唯一の国特別史跡である斎尾廃寺がある。金堂や塔、講堂跡が残り、これらを取り囲む土塁状の高まりも存在する。伽藍配置は法隆寺式である。斎尾廃寺が位置する加勢蛇川右岸は伯耆国八橋郡の中心地であったと推定されている。

大山町東部では、小松谷遺跡で竪穴住居跡や掘立柱建物跡、樋口西野末遺跡(132)、八幡遺跡(琴浦町八幡)で掘立柱建物跡が確認されており、田中川上遺跡(81)では溝から8世紀前半の須恵器・土師器がまとまって出土している。細工塚遺跡では大型の掘立柱建物群が検出され、平安時代の官衙関連遺構や有力層の建物と想定されている。析原窯跡(41)は須恵器窯と考えられるが、上寺谷たたら(42)の製鉄炉やその周辺での鉄滓表採事例などから、炭窯の可能性も指摘されている。下市築地峯東通第2遺跡(60)では、須恵器窯3基、製鉄炉1基、炭窯多数が検出されている。大山町名和の名和下菖蒲谷遺跡では、時期は不明であるが古代山陰道推定路線上で道路状遺構を確認したほか、小竹下宮尾遺跡(118)でも道路状遺構が検出されている。

当該地からやや離れるが、大山に築かれる大山寺は、密教隆盛とともに信仰の中心的な役割を果たし、地方豪族に並ぶ僧兵勢力を有すようになる。

中世 律令体制の崩壊とともに封建制社会が形成される。琴浦町南部には標高615mの船上山がそびえる。ここには南北朝期に後醍醐天皇が隠岐から逃れた行宮跡(国史跡)がある。また、旧名和町域には、名和氏に関する旧跡が認められる。南原千軒遺跡、倉谷西中田遺跡(120)では方形館跡や鍛冶関連遺構・遺物が出土した。

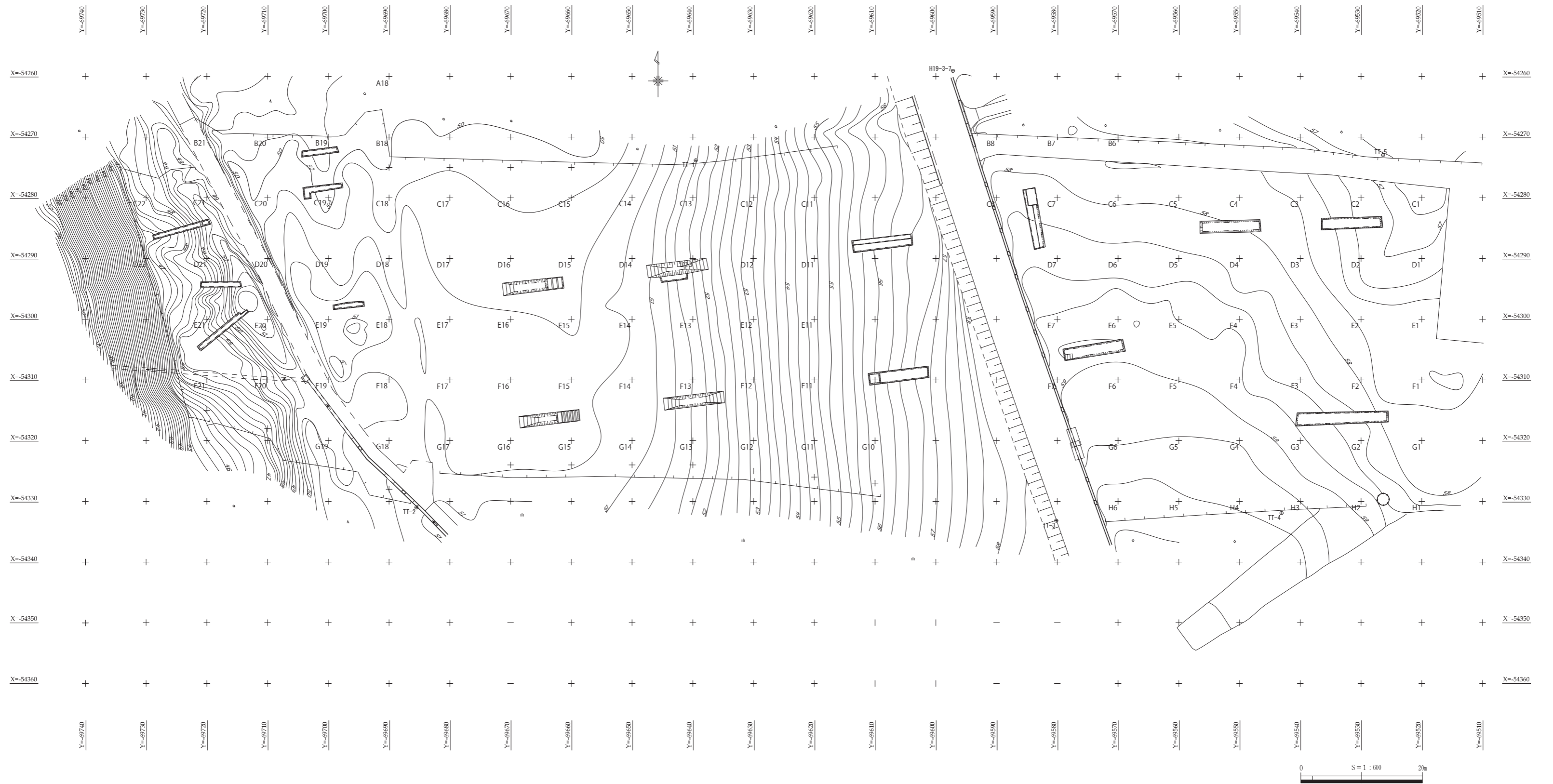
さらに、中世城館が各地に残り、籠津豊後守敦忠の居城とされる石井垣城跡(72)や、天守山城跡(58)、條山城跡(琴浦町太一垣)、大仏山城跡(同宮木)があるほか、長野城跡(46)・籠津城(檳城)跡(82)など日本海沿岸部にも砦跡が築かれている。門前鎮守山城跡(108)では、大規模な土塁・堀切が検出されている。

なお、籠津豊後守敦忠の帰依を得て1357(延文2)年に開基されたと伝えられる金龍山退休寺は、中世から近世を通じて曹洞宗の大寺院として隆盛を極め、周辺には参詣道の痕跡や道標、一丁地蔵が今も残っている。

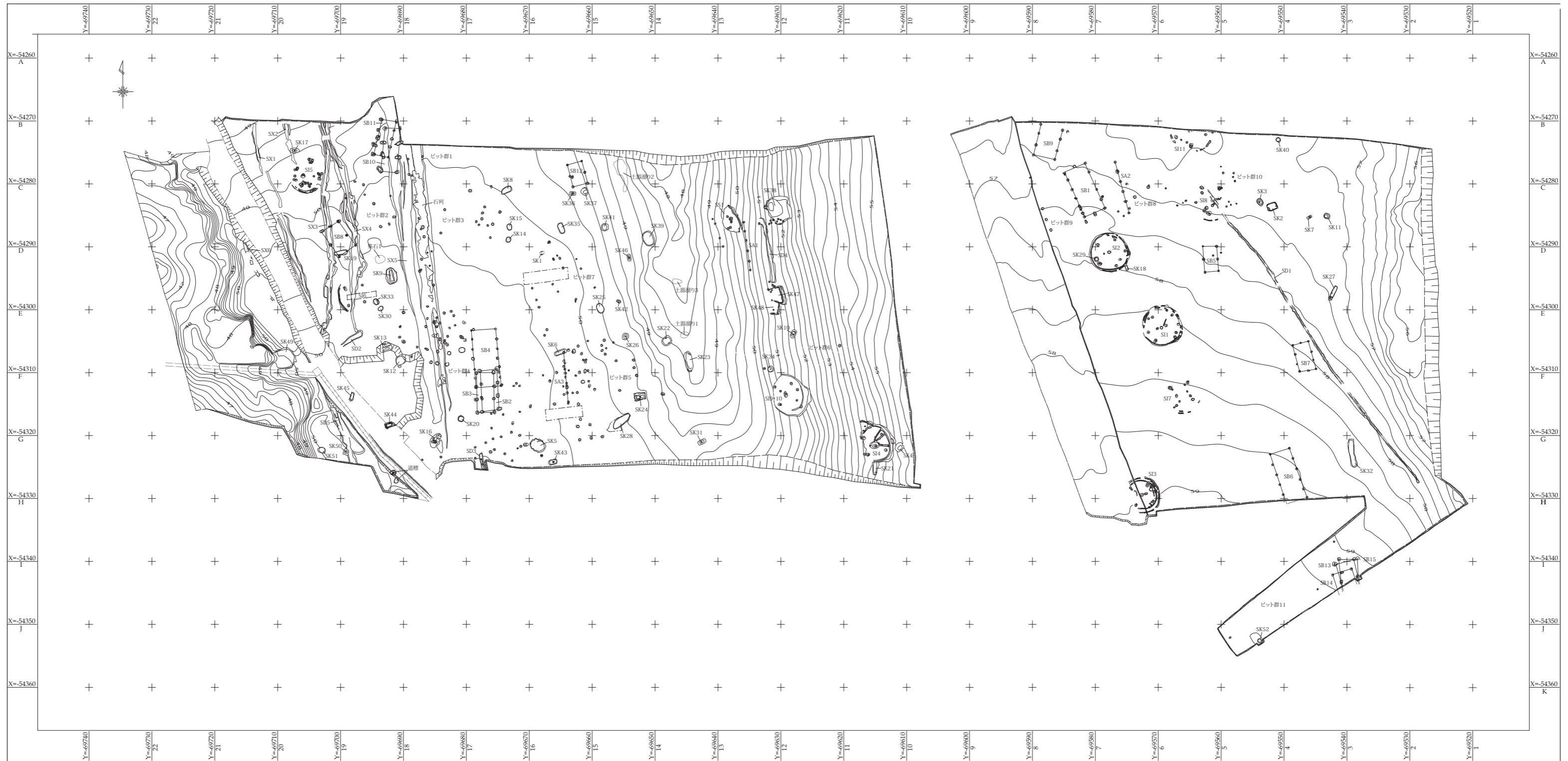
その他、特徴的な石造物として、琴浦町内の海岸部から船上山にかけて、鎌倉末期と推定される宝塔と宝篋印塔の二様式を合わせもつ独特の形態の赤碕塔が7基確認されている。

【参考文献】

- 中山町誌編集委員会編 2009『新修中山町誌』
- 名和町誌編纂委員会編 1978『名和町誌』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』
- 鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』
- 内藤正中・真田廣幸・日置条左エ門著 1997『県史31 鳥取県の歴史』(株)山川出版社
- 鳥取県教育委員会 2004『鳥取県中世城館分布調査報告書』第2集(伯耆編)
- 発掘調査報告書類については割愛させていただいた。



第6図 殿河内定屋ノ前遺跡調査前地形測量図



第7図 殿河内定屋ノ前遺跡調査後地形測量図

